



# 諦めない平和

あさの きりは  
豊里中学校 1年 朝野 桐生

平和の大切さを訴える世界連邦運動は自治体が賛同を表明する世界連邦都市宣言。僕が生まれた京都府綾部市は第一号都市となっている。終戦後わずか五年。人々がまだ生きていくことすら大変だったろうその時に、すでに前を向いて平和を強く願った人達がこの町に多くいたことを僕は誇りに思います。

戦争という暗い時代の流れの中で、綾部市でも数多くの若者が亡くなっている事を綾部市遺族会の資料で知りました。戦没者名簿には今でいうと高校生、十六才で戦死された方もおられました。楽しい事も人生も、まだまだこれからという多くの命がお国のためという大義名分により失われている事実が綾部市遺族会の資料の中にはあり、手に取ったその本がとても重く感じました。

そもそも平和とは何なのか？と僕は考えました。戦争や紛争がない社会、貧困や飢きんで苦しむ人がいない社会、経済格差のない社会、誰もが学ぶことを保障された社会、人種性別による差別のない社会、その答えは人それぞれで、人の数だけ思い描く平和の形もあると思います。

国籍も言語も育ってきた環境も全く違うけど、人は平和を願い、世界は平和を望んでいる。僕はずっと、平和の対義語は戦争だと思っていました。でも、平和の対義語が暴力だと知りました。テロや戦争のような直接的暴力と、貧困や抑圧や差別などの社会の構造的暴力、そしてこれらの暴力を正当化しようとする文化的暴力。インターネットやソーシャルネットワーキングサービスの普及で、今現在の様子がすぐわかる時代に、世界が病んでいる事に気がつけない、目を向けない無関心は僕が知らずに行っていた世界への暴力だったと思いました。

日本は、世界で唯一核兵器が実戦使用された被爆国です。当時アメリカは、日本のあらゆる都市に空爆を行い破壊しました。でも、原爆を投下するつもり都市には空爆を控えました。なぜなら、原爆の威力を調べるためです。他にも意図はあったと思いますが、この二発の原爆によって二十万人もの命が一瞬にして失われました。人が思い描く平和の中で、特に日本人が忘れてはいけない平和の形であり、世界へ伝え続け働きかけていかなければならない事だと思いました。

当たり前ですが、戦争を体験した方々は年々少なくなっています。その方々のお話や手記、綾部市遺族会の資料にも辛く悲しい出来事がたくさん語られています。でもそのどこにも相手に対する恨みや憎しみの言葉はなく、戦友への感謝や愛する人達を気づかう愛であふれた内容でした。その中で特に印象に残ったのは、「人はやり返す。だから同じ悲劇を繰り返さないためには恨んだらだめだ。そんな事をするくらいなら世界中に友達をつくれ。君は友達の家に爆弾を落とせるのか。」という言葉です。

他国からは、日本は平和ボケしているとやゆされることもありますが、戦争の悲惨さも自らの過ちも心に留めて、全世界のひとりひとりが正しい意味で平和ボケといえる時代を諦めず目指せたらいいと思います。



# 世界連邦運動

豊里中学校 1年 しらい 白井 みる 美瑠

世界連邦運動などが今どんどん世界に広がり、各国の多様性を保ちつつ環境問題などの一カ国では解決できないことをいろいろな国が協力して良くしていくという活動がされている。だが、今でも、日本とは違う国で、戦争をしているところがある。戦争はその一つの国だけでなく、最低でも相手の国、または近くの国などにも大きな被害をもたらすものだとは私は感じる。

私は、小学三年生の時に京都市内から綾部市に引っ越してきた。引っ越す前、「なんで綾部なの。」という気持ちで私は引っ越したくないといつも両親に言っていた。でも引っ越しをすることになった。引っ越す前から、祖母の家が綾部にあり、何度も綾部に遊びに来ていたが、綾部市に引っ越してきて、初めて知った事があった。そこから、綾部に関心をもてた。それは、「綾部市は、日本国憲法を貫く平和精神に基いて世界連邦建設の主旨を賛し、全地球の人々と共に永久平和確立に邁進することを宣言する。」という綾部市の世界連邦都市宣言文だった。簡単に言うと、日本国憲法の平和に基いたもの、世界連邦の中心になることを全地球の人と共に永久確立のためにひたすら目標に向かう、ということだ。そして、この宣言をしたのは綾部市が第一号だ。私は、この事を、綾部市への引っ越しを終えたあと母から聞き、平和について考える人が多いのではないかと綾部に興味をひかれた。学校への登校がとても不安だったが、宣言について知って、これから会う人たちと友好的な関係を築けると考えた。

六年生のころ社会の授業で、太平洋戦争があったことを学んだ。そこで、どれだけ長い期間行われていたかやしゅうげきなどを多く受けた場所など、戦争で起こった被害について学んだ。昔、日本でも戦争があったことを知って、私たちの日常の友達とのけんかなどのように自分たちだけで解決できることではなく、戦争は国同士の大きな戦いで、国民や建物などに大きな被害が出てしまうところがおそろしい所だと思う。世界が平和であり続けるためには、綾部市のような世界連邦の運動について考える日本の都市が増え、それが世界まで広がるといいと思う。日本以外の国がでてくれば、その国とのつながりができたり、海外に学びに行ったりする人などが増えると思う。外国の文化などで、より日本に活気があふれてくれば日本の明るい未来につながるだろう。

私は、世界連邦運動の国々の多様性を考えつつ世界のつながりを大切にするという考えを私自身が持てるようになりたいと思った。多様性という面で日本の良さや知識を増やして、母国を知ることや、外国に一度は行ってみるなどが私にできる事だと思う。

国同士のつながりが、遠い国などでもひんぱんにあれば少しの食い違いや、意見の違いなどで起こる戦争に発展することが少しでも減ると思う。交流のひんどが多くなると国同士の理解が深まると思う。私は将来的に、日本に観光などで訪れている外国の方と関われる仕事につきたい。そして、少しでも世界を知ってこれからも学んでいけたらいいと思う。



# パンの耳が世界を救う

西八田小学校6年 むらかみ はやと  
村上 隼

家で少しお腹が空いた時にお母さんが小さいサンドイッチを作ってくれた。だが包んでいるのはパンの耳だった。なぜか疑問に思った。

「なぜパンの耳なの？」

「余っていてそのまま捨ててしまうともったいないし、それが食品ロスに繋がるからだよ。」ということがあったから、食品ロスについて詳しく調べることにした。「食品ロス」とはまだ食べられるのにはいきされる食品のこと。日本では、「食品ロス」は四百七十二万トン。これは国民一人あたり茶わん一杯分の食品を毎日はいきしている状況で家庭系食品ロス量ランキング一位である。人口が少ないわりに世界的にも食品ロスが多い国になっている。食品ロスは家庭でのはいきの積み重ねによって、社会全体で環境負荷や資源の無駄使いなどの問題を招くだけでなく、食品を焼却処理する際に排出される二酸化炭素が地球温暖化の要因となる温室効果を助ける。

まず環境省は学校給食による食品廃棄物の発生等をはあくするため各市区町村にアンケートを実施した。小・中学生における学校給食からの食品廃棄物の年間発生量から、年間の食品廃棄物は、一人当たり約十七・二キログラムの食品廃棄物が発生しているとの結果がでた。では、私たちにできることとはいったい何だろう。例えば、給食をできるだけ長く食べる時間を確保するために準備時間を短くしたり、好き嫌いをできるだけなくしたりできるようにするなどはどうだろうか。ぼくの学校では、給食感謝集会で給食の勉強をし、食材ができるまでの苦労を知るための動画を見て学んだ。他にも団体だけでなく個人個人でもできることがあり先ほども言ったように好き嫌いをなるべくなくしたり、買いすぎ・作りすぎに注意したりするのがいいと思う。

このように一人でも多くの人意識を高めできることから行動にうつし、私たちが住みやすい地球にしていかなければならない。



# 平和な人生を大切に

にしむら りの  
西八田小学校6年 西村 俐乃

みなさん、自分が思う平和とは何ですか。私は、世界に戦争がないこと、世界に差別がないこと、毎日お腹いっぱいご飯を食べること、学校に行って勉強すること、友達と仲良く遊ぶこと、毎日安心して家族と家で過ごすこと、一生命を大切に生きていくことが平和だと思います。

平和な世界、国、町で暮らしたいという思いはみんな一緒です。ですが、今この世界は平和と言えるのでしょうか。私はこの世界が平和だとは思いません。なぜなら、ロシアによるウクライナに対する軍事侵攻が続いているからです。ロシアはミサイル攻撃、戦車部隊からの攻撃でウクライナに侵攻しています。私は、このロシアがウクライナに攻撃していることは、侵攻であり、戦争だと思います。ミサイルや、銃を使い相手がたくさん死んでいることは、戦争なのです。戦争を悪く言うのとただの殺し合いです。戦争をすることで多くの人が亡くなります。みなさんは、自分の大切な家族、大切な友達、大切な物、大切な思い出、自分にあっただった一つの命をうばわれたくないですよ。そんな事になる人生は私は絶対に嫌だし、あなたの人生の苦しい後悔の思い出になると思います。そして、戦争をするといつもの日常が消えます。私たちは、毎日たくさんご飯を食べたり、家族と一緒に暮らしたり、家族とお出かけをしたり、家族と旅行に行ったり楽しい日々を過ごしています。ですが、戦争をすると楽しい日常はなくなり真反対の過酷な日常となります。戦争をすることで、自分の生きていく権利がなくなります。当たり前のように将来の希望がなくなりこれからの人生を歩んでいけません。

そして、私たちは、今生きています。生きていくということは、周りの人に助けをもらい、支え合っているでしょう。戦争のない世界にするためには、相手の意見や個性を認め、尊重しあい、おたがいを思いやることだと私は考えます。



# 平和を創る

豊里中学校 1年 にしむら 西村 しんべい 慎平

今、世界では、さまざまな地域で紛争や戦争が起こっている。毎日ニュースではそのことが取り上げられ、戦争をすることで、何が得られるのだろうかと思ったり胸が苦しくなる。戦争に参加した人や巻きこまれた人が、けがをしたり、亡くなったり、家族を失ったりしている。食べるものや着るものもなく、毎日恐怖にさらされている。たとえ戦争に勝ったとしても、多くのものや人を失っている。こんなことが許されて良いのか。

僕はバレーボールをしている。僕の大好きなバレーボールやスポーツを通して、平和な世の中を創っていけないだろうかと思う。理由は三つある。

一つ目は、スポーツをしたり、見たりすることで、ストレスや不安、嫌なことを忘れられるからだ。僕はスポーツをするときに、そのことに夢中になって、嫌だったことを忘れられたり、ポジティブに考えられたりするようになったと感じる。

二つ目は、僕の好きな競技や選手を他の人と会話したり、インターネットなどで世界の人たちとも共感し、コミュニケーションをとることができるからだ。色々な人と交流、共感ができると、それぞれの国の人と良い関係ができる。そういうつながりが国と国との関係を強くし、信頼関係が生まれると思う。

三つ目は、スポーツ選手が世界の国々に行ってプレーしたり、修行をしたりして、世界の国々ともつながりができるからだ。選手同士だと尊敬し合ったり、認め合ったりできるだろう。僕も海外の人とは違うが、似たような経験をしたことがある。スポーツをしていなければ関われないような人たちともつながりを持つことができた。

今年、パリオリンピックが開催された。オリンピックは、世界平和を究極の目的としている。僕は実際にそう感じる場面を何度も見た。例えばバレーボール。日本対イタリア戦は、最終セットの最後の一点まで攻防が続いた。日本は惜しくも負けてしまい、悔し涙を流している選手もいた。しかし、イタリアの所属チームが同じ選手と抱き合ったり、笑顔で話したりしている選手もいた。石川祐希選手や高橋藍選手など海外でプレーする選手も多くなっている。「初めは言葉が理解できず、コミュニケーションをとることが難しかった。」と答えているドキュメンタリーを見たことがあるが、彼らの努力やバレーボールに対する熱意が海外の選手に伝わり、戦った後にはげまし合う友情にまでつながっているのだと感じた。

このようにスポーツはしている人を前向きな気持ちにしたり、していない人もスポーツをきっかけにつながりをつくることができたりするものだと考える。僕は将来バレーボール選手になりたいと思っている。石川祐希選手や、高橋藍選手のように、さまざまな国でプレーをしたり、オリンピックやワールドカップなどの世界規模の大会に出場したりして、関わりを深め、尊敬し合う、認め合うことの大切さを訴えていきたい。それが世界平和につながる行動だと信じて。



# 祖父の手紙が伝えてくれたこと

東綾中学校 1年 よしの 吉野 かい 權

僕が戦争について書いたのは、今地球で起きている問題の中でも、一番気にしなくてはならない問題が戦争なんじゃないかと思うからである。実際に今外国では戦争や紛争、テロなどが起きてたくさんの方が亡くなっている。僕は小さいころから、戦争を経験している祖父に戦争の話がたくさん聞いてきたのでどれだけ戦争がひどいことなのか分かる。

祖父は子供のころ、名古屋に住んでいて、戦争が始まったころはまだ小学校に入学していなかったそうだ。三年生くらいから、戦争が激しくなり、祖父の住んでいた名古屋にも空襲が起き、街は焼け野原に変わってしまった。この空襲は名古屋大空襲と呼ばれている。夜、寝ている時間に空襲警報が出されて、眠いのを我慢しながら防空壕に逃げたそうだ。人が目の前で死んだり、人の手や足が地面に落ちていたりする、そんな光景を何度も見たと言っていた。戦争をすることに反対したり、敵国の言葉を使ったりするだけで罪人になってしまう世の中だった。戦争は人の心も破壊する。

祖父の話聞いて、戦争に何も関係のない人がなぜ巻き込まれないといけないのか。第二次世界大戦での日本の空襲で三百十万人の人々が亡くなったそうだ。祖父は今まで自分が経験した戦争の体験を手紙で伝えてくれる。その今まで送られてきた手紙を、もう一度読み返してみることにした。どの手紙も戦争の悲惨さを伝えてくれる内容だった。これだけ僕に戦争を反対する手紙を送ってくれるのは祖父が戦争の苦しさ、悲惨さを誰よりもわかっているからだと思う。そして、誰よりも戦争は二度と起こさないと強く願っているからだと思う。ぼくは、祖父が書いてくれた手紙を生涯大切にしたい。

八月六日、午前八時十五分。八月九日、午前十一時二分。広島と長崎に原子爆弾が落とされた。この二つの街は一瞬で焼け野原に変わった。爆心地の近くにいた人は即死し、ある程度離れたところにいた人でも、放射線の影響で後遺症が残り、苦しみながら亡くなっていった。一昨年原爆ドームを見に行った。原爆ドームは、当時、広島県物産陳列館という広島県の特産品を売っているところだったそうだ。原爆ドームを見て、本当にその建物の真上に原子爆弾が落ち、その周りにいた人たちがたくさん亡くなったんだと戦争というものが一気に現実味を帯びた。原爆の資料館も見に行った。原爆が落とされた後の広島の様子を見てびっくりした。周りにはがれきだらけでほとんどの建物はバラバラに砕け散っていた。写真なども見て、原爆がどれほど怖いものなのかを知った。もう二度とこのようなことが起こってほしくない。

原爆ドームを見たり、祖父の戦争の体験を聞いたりして、戦争がどれだけひどいことなのか改めて分かった。世界で起きている戦争や紛争のことをひとごとのように考えないようにしたい。そして戦争でとても怖い思いをした人々は祖父だけではなく、他にもたくさんいることを忘れないようにしたい。戦争を仕掛けることは結局自分の国も滅ぼすことにもなることを知った。

戦争はほんの小さな揉め事から始まる。みんな戦争はよいことではないことくらい分かっているはずなのに、なぜするのだろう。世界が一つの国になれば戦争はなくなる。そのためには

一人一人が思いやる心を持ち、戦争だけは絶対にはじめてはいけないという思いを何があっても貫き通すことが大切なのではないだろうか。これを考えると世界連邦の取り組みはとても今の地球にとっても必要なことに感じる。戦争は何も関係のない人たちを巻き込む。周りの人たちを巻き込まない他の方法はないだろうか。話し合ったりして解決する方が戦争よりもずっといいと思う。

これからの地球の未来は僕たちの手にかかっている。いつか世界が一つになって武器を使った争いがなくなることを願う。



# 平和は私たちが作る

上林中学校2年 ころな はな

私は、最近、平和について深く考えることが増えました。ニュースなどで国どうしが戦争したりするのを最近よく見ます。これを毎日見るだけで、平和がどれほど大切なのかを感じるようになりました。そこで、私は平和の大切さについてもっと知りたいと思いました。

まず、平和は人々が幸せに暮らすための大切なものだと思います。平和がないと、みんなは大変なことに巻き込まれたりするかもしれません。そして、もし戦争が起こったとしたら、家族がバラバラになったり、家がつぶれたりするかもしれません。戦争が起きたら、今までの普段の生活がいつも通りにできなくなります。だから、私たちの世界に平和がなければこんなに楽しい生活ができません。

また、平和があることで、子どもたちが学校に行けます。今、戦争をしている国の子供達は、ちゃんとした生活もできず、勉強、学校にも行けません。だから、平和があることで、私たちは、勉強に集中でき、自分の夢をかなえることができます。

では、私たちは、平和に過ごせるために何ができるのでしょうか。一つ目は、身近な人を大切にすることです。友達や家族とケンカせず、助け合ったり、支え合ったりするのが大切だと思います。二つ目は、学校でいじめをしないことです。いじめをしなかったら、人となかよくなれるし、新しい友達ができるかもしれません。そして、いじめられている人がいたらその人を助けることが大切です。三つ目は、周りの人の意見を取り入れることです。自分の意見ばかりだけではなく、周りの人の意見を取り入れることが必要です。少しずつ人との関わり方を変えていくことで、もっと平和になれると、私は思っています。

もう一つ大切なことは、平和について学ぶことだと思います。昔の日本は、たくさんの戦争をしていきました。その中でも、どれだけ人が苦しい生活をしていたのかは、私たちにはわかりません。だから戦争が起きていた時代の人々はどのように平和を取り戻したのかを学ぶことがとても大切だと思います。昔のことを忘れず、同じことを繰り返さないようにする責任があります。

私はまだ中学生なので、大きなことはできません。ですが、平和について学んだり、考えたり、周りの人や友達と仲良くすることはできます。そして、いつか大人になった時は、もっと大きな平和活動に参加し、世界中の子どもたち、大人たちを戦争から助けたいと私は思います。平和な世界を作るために、今から少しずつできることを始めていきたいです。

平和は、私たちの心からできるものです。みんなが平和を大切にする気持ちを持つことで世界はもっと幸せな場になると思います。